

船名 東平（とうなる）の
名前（別子銅山）の由来



一本松物流株式会社

〒554-0012 大阪市此花区西九条1丁目12-15 4F
TEL(06)6460-7400(代) FAX(06)6460-7405

船名 東平(とうなる)の名前(別子銅山)の由来

東平地域は、唐谷(からだに)、柳谷(やなぎだに)、
一本松(いつぽんまつ)、第三(だいさん)、
喜三谷(きそだに)、東平(とうなる)、辻坂(すべりざか)、
呉木(くれき)、尾端(おばな)、の各9集落を含めた
海拔750メートル前後の地域を指していました。

東平時代の幕開けは、第三通洞の開さくを開始した明治27年(1894)からです。

また東平の全盛期は東延から採鉱本部が移ってきた大正5年(1916)から
端出場(はでば)へ採鉱本部が移される昭和5年(1930)までですが、

東平時代は第三通洞が開通した明治35年(1902)から
昭和43年(1968)までの66年間を位置づけていました。

東平エリア

東平は標高750mの山中に位置し、明治35年(1902)の
第三通洞の貫通を契機に、大正5年(1916)から昭和5年
(1930)まで採鉱本部が置かれました。最盛期には約
3,800人も人口がありました。
昭和43年の東平坑の閉坑により人々は離れましたが、選
鉱場/貯鉱庫、索道停車場、インクラインなどの跡や第三
通洞、第三変電所など多数の産業遺産が残っています。



旧第三旧変電所

明治37年に落シ水力発電所の電気を配
電するために建築されましたが、40年に
焼失し、42年に再建されたものです。



第三通洞

別子銅山支配人伊庭貞剛により、明治27
年から作業をはじめ、明治35年に東延斜
坑底までの1,820mを貫通しました。



ひろ せ さい へい 広瀬 宰平

別子銅山近代化の祖[初代住友総理(代)人]
滋賀県野洲市の出身。11歳で別子銅山に勤務し、
慶応元年38歳で別子銅山支配人となる。明治維
新に際し、新政府に接収された別子銅山の鉱業
権を粘り強い交渉により確保した。次いで別子銅
山の近代化を図り、家法を制定するなど、住友の
歴史上屈指の功労者であった。



すず き ま さ や 鈴木 馬左也

国家百年の事業[3代目住友総理事]
明治29年に住友に入社。別子鉱山の近代化のた
めの電源確保のため土佐吉野川水力電気を操
業。わが国の技術発展のため積極的に外国資本
の導入を行い、わが国を産業貿易立国にしたいと
念願していた。鈴木が起こした諸事業は、国家百
年の事業として今もお生き続けている。



い ば てい ごと 伊庭 貞剛

環境対策の先駆者[2代目住友総理事]
明治12年大阪上等裁判所の判事から、叔父広瀬
の勧めにより住友に入る。銀行、倉庫、伸銅場など
を設立する。別子銅山の煙害克服のため、精錬所
の移転や植樹を実行し、毎年100万本以上の植
樹を別子の山に行う。まさにわが国の環境対策
の先駆者であった。



わし お か げ じ 鷺尾 勘解治

企業と地域の共存共栄
[住友別子銅山(株)常務取締役]
兵庫県神戸市出身。明治40年住友に入社し、別
子鉱業所勤務となり、大正15年同所支配人とな
る。昭和2年住友別子鉱山(株)設立に当たり常務
取締役役に就任。一貫して企業と地域社会との共存
共栄路線をとった。



旧東平貯鉱庫・選鉱場

「東洋のマチュピチュ」と称される施設
は、東平の「貯鉱庫」と「選鉱場」を指し
ています。坑道から運び出された鉱石
は、選鉱場に運ばれ、その下に設置され
ている貯鉱庫に下ろし、索道を利用して
端出場へと搬出されました。